

わが子を犯罪から守るために



あрами

あら坊

荒川区教育委員会

# 子どもの防犯力を高めましょう

子どもたちが犯罪に巻き込まれないためには、子ども自身が危険を予測し回避する力＝**防犯力**を身に付けていくことが大切です。防犯力を育むためには、各家庭で、子どもの状況に応じた取り組みを親子で話し合いながら進めていくことが必要となります。

親子で話し合いを進める際の道しるべになるよう、防犯の主な項目ごとの話し合いのポイントを紹介します。まず子どもと話し合うことから始めましょう

## 防犯のポイント

### 1. 出かけるときに気をつけること

誰と、どこへ、何をしに、何時まで出かけるのか確認してから、外出するように習慣づけることが大切です。

家族が留守のときにも伝言できる専用の外出ノートやボードを用意するといいでしょう。

### 子どもが今どこにいるか知っていますか？

- 外出するときには防犯ブザーを必ず持たせましょう。
- よく遊ぶ友達の家や電話番号がすぐに分かるようになっていますか。
- よく遊ぶ公園の場所や名前を知っていますか。
- 帰宅時間を決めておきましょう。
- 仲のよい友達の家や塾など、よく行く場所への経路を決めておきましょう。
- 道の途中の危ない場所、安全な場所などをお子さんと確認しておくことも大切です。
- 地域の安全状況を日ごろから確認しておきましょう。

## 2. 犯罪に巻き込まれそうになったら

防犯の基本は「いかのおすし」。

犯罪に直面したときのことも、子どもと話し合っておきましょう。

### 「いかのおすし」って知っていますか？

知らない人にはついていかない

声をかけられたときには、両手を広げたくらいの距離をおいて話し、誘われてもついて行かない。

他人の車にのらない

車に乗せられそうになったら、車の進行方向と逆に逃げる。

おお声を出す

体にさわられる、たたかれる、どこかに連れて行かれそうになる…こんなときには、大きな声で助けを求めたり、防犯ブザーを鳴らしたりして周りに知らせる。

※防犯ブザーは、作動するかどうか定期的に点検しておきましょう。

すぐ逃げる

少しでもおかしいと思ったら、すぐに人通りの多い、明るい方へ、逃げる。

しらせる

近くの大人にすぐに知らせる。警察に通報してもらう。

#### エレベーターに乗るときは

マンションなどのエレベーターを利用するときには、エレベーター内のボタンの前に立って、危ないと思ったら、近くの階のボタンを押してすぐ降りるようにしましょう。また、おかしいなと思ったら一緒に乗らない、などのルールを決めておきましょう。

# 3. 留守番のときに気をつけること

子どもが留守番する際の年齢に応じたルールを決めておきましょう。

## 留守番のとき、何に気をつける？

- 家に誰もいなくても、いつも通り元気よく「ただいま!」と家に入ろう。
- 家に入ったらカギをかけよう。
- ドアは開けない。
- 子どもだけで火を使わない。

## 電話がかかってきたらどうする？

- あやしい電話はすぐ切って、後で家の人に知らせる。
- 大人が外出中は留守番電話にして、電話に出ない。…【低学年用】
- 「もうすぐ帰ってきます、後でかけて下さい」…【中学年用】
- 「すぐ帰ってきますので、かけ直させます。お名前と電話番号を教えてください」…【高学年用】

## 誰かが家に訪ねてきたらどうする？

- ドアは開けない。
- 大人が外出中は出なくてもよい。…【低学年用】
- 「もうすぐ帰ってきます、また後で来て下さい」…【中学年用】
- 「すぐ帰ってきますので、こちらから連絡させます。お名前と電話番号を教えてください」…【高学年用】

## もし火事になったらどうする？

- 無理に消火しようとせず、すぐに逃げる。
- 近くの大人に知らせる。
- ※火のまわりは、思っているより早いものです。



119番

## 知らない人にお友達や知り合いの住所や電話番号を聞かれたらどうする？

○友達住所や電話番号は教えない。

○学校連絡網やアドレス帳は、子どもの手の届かないところに保管を。…【大人の対策】

※入手した住所や電話番号を使った、振り込め詐欺などの被害が出ています。

## 4. 携帯電話やスマートフォンの使い方

携帯電話やスマートフォンは便利な反面、危険な側面も併せ持っています。携帯電話を持たせる前に、本当に必要なのかお子さんと考えてみましょう。

### 親子で話しあってルールをつくりましょう

○知らない人からのメールや電話は、無視する。

○「言うことをきかないと君が〇〇したことをみんなにメールするぞ」というような脅迫メールも無視する。怖いと思ったら親に相談する。

○サイトに登録する場合は親に相談する。

○自転車に乗りながら携帯電話は、使わない。

○子ども同士のメールは必要か？

○必ずフィルタリングする。

※フィルタリングとは

子どもが持つ携帯電話から、出会い系サイトやアダルトサイトなどの有害サイトへのアクセスを防ぐサービスで、各携帯電話会社が無料で提供しています。

※【有害サイトアクセス制限サービス】の活用について詳しく知りたい方は、

総務省ホームページをご覧ください。

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/d\\_syohi/filtering.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/d_syohi/filtering.html)

## 5. 地域の防犯力を活かそう!

荒川区は地域防犯力が高いといわれています。

親子で積極的に地域と関わりをもって、地域の一員として顔を覚えてもらうようにしましょう。

地域の知り合いが増えれば、わが子の防犯力も高まります。

### 地域のイベントに参加しよう!

○お祭りや清掃活動など、いろいろなイベントに親子で参加して、地域の人たちと知り合いになりましょう。地域の皆さんの見守りは、大きな防犯の力になります。

### 地域の人にあいさつしよう!

○親がすすんで隣近所にあいさつしましょう。

○イベントなどで地域の人にあいさつしましょう。

### 地域の人になろう!

○子どもが悪いことをしたとき、危ないことをしたとき、「おせっかいおじさん・おばさん」になって、よその子でもはっきり叱りましょう。

○私たち親も地域の人です。地域の防犯活動をはじめ、町会や子ども会活動などに参加しましょう。地域のコミュニティーが活性化されて、地域の防犯力もより高まります。

## コーチングのすすめ

防犯のポイントを確認できたら、次は

# 子どもと会話をしよう!

でも、その前に…

皆さん、子どもたちとちゃんと会話ができていますか？

もしかしたらこんな会話になっていませんか？

- ◆「いかのおすし』っていうのはね。『いか』が『知らない人について行かない』…」
- ◆「留守番はちゃんとカギをかけて、電話は…」
- ◆「インターホンが鳴っても、『今、お母さんはいません』って言うのよ…」

このように親が子どもに一方的に教え・指示するだけでは、子どもの耳を素通りしてしまいます。また、自分で考えて行動する力がつきにくくなります。

子どもの防犯力を高めるためには、「こういうときにはどうしたらいいのだろう」「なぜ、そうした方がいいのだろうか」と、子ども自身が考えることが大切です。

親は、「教える」のではなく「子どもの考えを引き出すような声かけ」をします。このようなコミュニケーションを**コーチング技法**といいます。

対話により、相手の持っている能力を引き出して、自ら問題を解決できるように育成していくのです。

# コーチング技法

## 質問

子どもに考えさせ、子どもから答えを導き出すために、質問をしてみましょう。

○単に「Yes」「No」で答えられる質問(クローズド・クエスチョン)ではなく、「What(何を)」や「How(どのように)」で答えられるような質問(オープン・クエスチョン)をすると、子どもは考えを深めることができます。

例えば…

- ◆「『いかのおすし』の『いか』ってなあに？」
- ◆「おうちに一人にいるときはどうしたらいいと思う？」
- ◆「その時インターホンがなったらどうしよう？」

前のページの会話と比べてみて下さい。

## よく聴く

○親がすぐ答えを出さずに、子どもの考えをよく聴きましょう。

「そんなのダメに決まっているじゃない。」とすぐ否定されると、子どもは言葉を口にすることに抵抗を感じてしまいます。見当違いの意見でも「そういうものもあるね。でも、○○だとどう？」と導きたいものです。

○間違っているでもすぐ否定しない。子どもの言葉を繰り返しましょう。

「間違っているな」と感じて、子どもが言ったことをオウム返しに繰り返しましょう。そうすると、子どもは承認されていると実感でき、次の話がしやすくなります。また、子どもが自分で言ったことを再確認し、間違いに気づくこともあります。

## ほめる

○自分(親)の気持ちを込めて。

小さなことでもよいところを見つけてほめてあげましょう。単に「すごいね」とほめるよりも、「○○ちゃんが△△に気がついて、お母さんはうれしいなあ。よく気がついたね」と具体的にほめてあげましょう。「私はうれしい」と私を主語にしてほめる I(アイ)メッセージの方が、より心の込もったほめ言葉になります。

親が子どもに一方的に答えを示すのではなく、「こんなときあなたならどうする？」「どうしたらいいと思う？」と呼びかけ、子どもが自分で考えて答える。

このようなコミュニケーションを日常化すると、自分で判断し行動できる子に育ちます。また、親から否定されないという状況にあると、子どもは安心して自分の意見を言うようになります。

# さあ、お子さんと一緒に

# 防犯シートを作りましたよ!

## 防犯シートができたなら、現場で確認!

実際に通学路を歩いたり、よく行く公園に行ったりして、  
「危険なこと(場所)って、どんなこと(ところ)だろう」と発見させ、  
「この状況では、どんな危険なことが起こりそうだ」と予測させ、  
「危険を避けるために、自分にどんなことができるだろう」と考えさせるよう、  
親子で一緒に話し合ってみましょう。

防犯シートは掲示するなどして、日ごろから活用していきましょう。

情報コーナー



## 「わがまちあんしん 110 番」制度

「わがまちあんしん 110 番」は、地域が協力して子どもを犯罪から守るために、子どもが身の危険を感じた時に緊急避難できる場所を身近な所に設置していくものです。

現在、区内では「わがまちあんしん 110 番」の家やお店、会社などに協力をいただいています。玄関などの見やすいところにステッカーやプレートを掲示して、子どもが助けを求めてきたときには、子どもを保護し、必要に応じて 110 番通報や関係機関への連絡をしていただくものです。

通学路やよく行く公園、友達の家までの途中にある「わがまちあんしん 110 番」の家を、お子さんと一緒に確認しておきましょう。

## おかしいなと思ったら、お気軽に警察にご連絡・ご相談を

大きな事件の背景には、その何倍、何十倍もの「ささいな出来事」が起きているといわれています。知らない大人と一緒にいこうと声をかけられた、夜遅くまで子どもたちが公園にいる…など、おかしいなと思ったら、すぐに警察にご連絡をお願いします。こうした「ささいな出来事」に迅速に対応することが、子どもが被害者となる犯罪を防止することにつながるのです。

また、犯罪が起きた際にも、直ちに警察へ通報してください。犯人を検挙することが次の犯罪を予防する大きな力になります。

なお、警視庁では、各地域で発生した空き巣、ひったくり、痴漢、詐欺などの犯罪の情報を防犯アプリ「デジポリス」や「メールけいしちょう」からメール配信しています。

ご希望の方は、警視庁のホームページよりご登録ください。

### 【デジポリス】

<https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/tokushu/furikome/digipolice.html>

### 【メールけいしちょう】

[https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/about\\_mpd/joho/mail\\_info.html](https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/about_mpd/joho/mail_info.html)

荒川警察署  (3801)0110


南千住警察署  (3805)0110

尾久警察署  (3810)0110

## 学校保護者デジタル連絡ツールのご利用を

区では、子どもたちの安全に関わる不審者情報や事件の発生、災害などの緊急時の学校対応、その他の学校からの連絡事項について、保護者へ迅速に連絡するために、学校保護者デジタル連絡ツール「スクリレ」を導入しています。まだ、登録していない方は、各学級担任までお申し出ください。

荒川区教育委員会事務局登校・放課後サポート課

 (3802)3111 内線 3831

# ぼうはんシート

1. 出かけるときに気をつけること
2. 犯罪に巻き込まれそうになったら
3. 留守番のときに気をつけること
4. 携帯電話やスマートフォンの使い方
5. 地域の人に顔を覚えてもらおう

しょうがっこう 小学校	ねん 年	くみ 組	なまえ 名前
----------------	---------	---------	-----------